



どんな人でもふらっと立ち寄れる 地域の場づくり

江 文菁 建築学部 建築学科 助教

キーワード: 富山型デイサービス、高齢者、障害者、共生ケア

概要

富山型デイサービスは高齢者、障害児・者、子どもが年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に住み慣れた地域においてケアを受けることができるサービスである。2020年3月現在、富山県内の富山型デイサービスは131カ所にのぼる。「ふらっと」の利用者は障害児・者が8割程度と他の富山型デイサービスとは利用状況が異なっている。そのため障害児・者、なかでも自閉症児・者への配慮が必要であった。

「ふらっと」は、自治体との議論を重ね、既存の倒産建物(事務所兼住宅)を福祉転用することができた。事業運営の面では、建物の改修や施設の維持管理、事業の運営補助などの助成を受け、公設民営の形で開設に至った。ここでは施設代表者、建築設計者へのインタビューを経て、多様な利用者が共存する福祉施設の計画や設計のときに配慮した点を示す。

・平面図で分かる増築・改修のポイント



利用・用途 応用分野

- ・富山型デイサービス建築改修
- ・小規模福祉施設などの建築改修・リノベーション

関連情報

- 関連論文
 - ＝江文菁ほか: 富山型デイサービスにおける利用者特性と姿勢の経年変化に関する考察ー地域共生ケアホームに関する研究 その2ー, 日本建築学会計画系論文集, Vol.81 No.727, pp.1887-1894, 2016.9 DOI <http://doi.org/10.3130/aija.81.1887>
 - ＝日本建築学会: 利用者本位の建築デザイン 事例でわかる住宅・地域施設・病院・学校, 彰国社, 2017.2
 - ＝森一彦ほか: 福祉転用による建築・地域のリノベーションー成功事例で読みとく企画・設計・運営, 学芸出版社, 2018.3